

学校運営計画 (4月)					
学校運営方針	高校生活を通して、確かな学力を身につけ、豊かな人格と健全な身体を育み、グローバル社会を生きぬく国際感覚を磨く。				
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	評価		
<p>国公立大学の合格者が昨年度に比べさらに減少したため、引き続き国公立大学合格者を増やすための努力を続けたい。</p> <p>今年は新3年生が新テストの受験となる。調査書の準備も含め、受験体制を万全にしたい。就職も今年から厳しくなる見通しがあるため、一人ひとりの希望に応じた就職先を見つけていきたい。</p> <p>今年はグローバルコースの入学者が減少した。その反省を踏まえて、募集活動に力を入れたい。またグローバルコースの授業内容もさらにレベルアップを図りたい。</p> <p>地元との連携強化は一層おし進める。地方の私学こそ地元の信頼が大切である。今後とも地域・地元中学校と積極的に関係を保ち連携を強めたい。</p>	学習指導の充実	様々な課題に対応できる知識・技能を持つ生徒を育成	○学習指導を通して、「物事の本質に迫る力」や「仲間と協同して学ぶ姿勢」、「積極的に社会に参画しようとする態度」を育む。	C	
				○主体的・対話的で深い学びを全教科・科目において実践する。	D
		効果的・効率的な教育活動推進のための工夫	○校務システム係と連携し、生徒の動静を把握するとともに、時間割の作成、定期考査、規則等の統一など、効果的な方法を検討する。	C	
	進路指導の充実	きめ細やかな進路指導	○生徒一人ひとりの希望に応じた進路を決定する。 ○十分な時間をかけ生徒一人ひとりの適性を判断する。 ○生徒自身の進路に対する意識を高める。	B	
		計画的な進路に関する行事	○大学見学、体験学習、職場見学など、年間を通して計画をしっかりと立てる。	B	
	生活指導の徹底	基本的な生活習慣の確立	○高校生として基本的な生活習慣を身につけさせる。	C	
		他者への思いやりの気持ちを育てる	○偏見や差別、いじめをなくし、思いやりの気持ちを育てるとともに、国際理解を深め、多様性を受容する心を育てる。	D	
		安全教育の充実	○交通安全教育・SNS適正利用教育・薬物乱用防止教育・防災教育を充実させる。	C	
	その他	カリキュラムマネジメント	○総合的な探究の時間を充実させるため、各学年と協力し、見通しをもって学ぶためのキャリアパスポートを活用する。	C	
			○教育活動におけるPDCAサイクルを促進する。	C	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
国 語	基礎学力の向上	辞書をひく習慣を身に付けさせ、それぞれの言葉の正しい定義を理解させる。	D	漢字検定の受験者は増えているが、合格率をあげられていないため、辞書引く習慣を今まで以上に付けさせたい。また、授業のレベルアップは図られているが、学力テストで結果が残せていない。いかにして生徒の学力向上に繋げていくかが課題である。研究授業も出来ていないので、新学習指導要領に沿った研究授業を1回でも多く実施したい。
		漢字の書き取りの練習をさせる。	C	
		漢字検定を積極的に受けさせる。また、合格率を上げる。	C	
		「読む」「話す」「書く」ことを反復させる。	B	
	授業の改善	一方的な授業ではなく、双方向の授業になるように努める。	B	
		担当している生徒やクラスのGTZを向上させる。	C	
		一般入試を視野に入れた指導を行う。	C	
		他教員の授業見学を積極的に行う。	D	
		各種研修会に積極的に参加する。	D	
地 歴 公 民	基礎学力の向上	基本的な学習習慣を身につけさせる。	A	
		基礎・基本を大切にし、わからない語句を自ら調べさせることにより、内容を理解させる。	B	
		補助教材を使用した予習・復習を促し知識の定着を図る。	B	
	興味・関心を高める授業の工夫	講義だけではなく、映像資料、新聞記事などの視聴覚教材等を積極的に活用し、興味・関心を高める。	B	
		身近な話題と結び付けた授業を展開することで、興味・関心を持たせる。	B	
	表現力の向上	プレゼンテーション能力の向上を目指し、生徒に意見を発表させ思考力を育てる。	C	
数 学	数学に対する関心の向上	身近な例から数学に対する興味・関心を高める。	B	
		生徒の興味・関心があるものを取り入れた授業を行う。	C	
	基礎学力の向上	定期的に小テスト等を実施し、基礎学力の向上を図る。	B	
		教科書、問題集やプリント等から宿題を与え、予習・復習の習慣化を図る	B	
		理解不足や疑問のある生徒が自主的に復習し、質問等に來られる環境をつくる。	A	
	数学的考察力の強化	既習の内容を用いて様々な発展問題に取り組ませる。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
外国語	基礎学力の向上	授業進度、発問内容、課題、アクティビティなどがクラスごとの習熟度・技能に合っているか定期的に点検し理解度を測る。	B	基礎学力定着を目標に今年度は単語テストを定期的実施してきた。来年度も引き続き継続していきたい。また、大学入学共通テストの傾向として速く情報を得る力が求められるため、精読だけでなく、スキミングなど速く英文を読む練習を上位クラスの授業内で取り入れていきたい。
		授業内で復習テストや単語テストを繰り返し、基礎学力の定着を目指す。	A	
	英語力の更なる向上	実用技能英語検定の受検を推奨する。また、検定対策を補習や講習を通じて行う。	A	
		授業内のアクティビティを充実させ、アウトプットする機会を設ける。	A	
		修学旅行に向けて、実践的なコミュニケーションの指導をする。	B	
	家庭学習の習慣化	定期的な小テストを確立し、小テストに向けた自宅学習を促す。	A	
		実力テストに向けた計画的学習と振り返り学習の指導を徹底する。	B	
	授業の工夫と改善	実力テストや英語民間試験の結果を分析し、授業の改善に役立てる。	B	
定期的に教科会を開き、意見を交換する。また、研修会にも積極的に参加し内容を共有する。		A		
理科	基礎学力の向上	授業内での小テストや問題演習を通して基礎の定着をはかる。	B	ICT機器を活用し、コロナ渦の中でも実験や観察などの動画を見ることで、科学的な興味関心を持たせることができた。次年度からは一人一台のPCを有効活用し、より思考力がつく授業を展開していきたい。
	自然の事物・現象に主体的にかかわり、科学的に探求しようとする態度を養う	授業内の発問により、生徒の意見を多く発信させる。	A	
		授業において、生徒の興味・関心等に応じて、自然や科学技術に関連した課題を出し考察させる。	B	
		ICT機器を用いたデジタル教科書の活用や演示実験を通して、知的好奇心や探究心を喚起させる。	A	
問題解決能力の向上	科学的課題にグループで協力し合いながら取り組み、発表させる。	B		
家庭	学習意欲の向上を図る	生徒が主体的に学習意欲をもって取り組めるような指導方法を日々研究し、授業に取り組む。	A	調理実習を行えず授業の中で知識や技術を実践させることができなかった。この状況下で出来ることを工夫して実施していきたい。
	生活に必要な知識・技術の習得	家庭生活を創造する上で必要な知識や技術を習得させ、生徒自身が実践の中で活用できるような力を育む。	B	
保 健 育	生涯を通して運動に親しむ資質や、健康の保持・増進のための基礎体力の向上	体力テストや健康診断の結果をもとに個々の目標を設定・達成をさせ、その運動の楽しさや喜びを感じられるようにする。	B	今年度はコロナの影響で思うように授業展開が出来なかった。ICTを活用した授業に取り組みたい。良かった点は、生徒の能力に応じた種目を取り入れたこと。
		生徒一人ひとりの能力・適正、興味・関心、体力や生活に応じて種目を選択し、指導法を工夫する。	B	
	基礎学力の向上と更なる意欲を育む	映像を使用したICT機器を積極的に取り組み、生徒との対話を実践する。	B	
	生徒が自主的・意欲的に取り組める環境の整備	グループ活動により、各グループの課題や個人の課題に沿った練習内容を考え実践させる。	C	
運動に積極的に取り組めるような活気あふれる雰囲気づくりを目指す。		A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
情報	情報社会への参画する態度の育成	実社会とのかかわりの中で、社会のモラルに反することのない実践力を身につけさせる	B	今年度はコロナ禍の授業を行い、思うように進度がいかなかった。新たな生活様式の中で、授業が展開できるようにしたい。
		情報社会の中に参画できるように、基礎的な情報に関する能力を身につけるさせる。	A	
	情報技術への知識・理解を深める	コンピュータ実技を通し、基礎的な操作方法を身につけさせる。	B	
芸術	授業において芸術の幅広い活動の展開	生徒一人ひとりの個性を生かして、主体的に関わっていけるように支援する。	A	音楽科では、歌唱活動が出来なかったため、来年度では、マスクをつけて歌唱できる範囲で授業を展開していきたい。 また、伝統音楽の楽器を授業で扱うことにより、生徒たちの意欲を深めることができるため、深く音楽を学べる環境が必要だと感じた。 美術科では、新型コロナウイルス感染予防下での教材研究をより深めることが課題である。特に限られた画材での制作活動で表現力を向上させるよう支援を努めたい。また、発想力や独創性の低下が著しいと感じたので、その向上に向け授業展開に励みたい。
		様々な芸術作品から作者の意図を読み取り、作品を深く知る。	A	
		実践的・体験的な諸活動を多く取り入れ、表現力を磨く。	B	
	生涯にわたり芸術を愛好する心情の育成	幅広い教材を取り上げ、生徒の芸術的な価値意識を一層拡大できるようにする。	A	
		生活を明るく豊かにする創造活動をしていくための基礎となる能力・資質を育てる。	A	
	我が国の伝統や諸外国の芸術・文化についての関心や理解の探求	日本の伝統音楽に触れる。（音楽）	A	
		西洋と日本の作品の比較をし、日本伝統美術の独自性を考察する。（美術）	B	
		音楽の分野の歴史やその背景について学ぶ時間をつくる。	A	
美術作品の美しさや多様性を感じ取れるようにする。		A		
渉外部	PTA活動の推進	各種行事に多数の保護者が、積極的に参加できるよう内容を充実させ働きかける。	D	新型コロナウイルス感染防止の観点から、行事が開催できなかった。来年度は、感染防止を念頭に置き、行事が開催できればと思う。
		各種研修会に参加する。	D	
	広報活動の充実	広報誌の内容を吟味し、正確な情報を発信する。また、内容の充実に努める。	C	
入試部	中学校との信頼関係に基づく入試体制の確立	中学校教員と連絡を密にとり、そこで得た情報を基に入試制度を改革する。	A	次年度については広報活動を強化していきたい。特にホームページ・SNS等を利用した広報活動を充実させることによって受験生数・入学者数の確保に努めたい。また、入試制度の変更・ウェブ出願の導入に向けて新年度早々に検討を始める。
		中学校を窓口とする丁寧な入試業務を行う。	A	
	中長期的展望に立脚した入学者数の確保	定期的に小学校・中学校・塾・予備校を訪問し、本校教育の啓蒙に努める。	B	
		グローバルコースを中心に生徒のレベルアップをはかる。	C	
	広報活動の充実	ホームページ・パンフレット・ポスターを魅力的なものにする。	B	
		学校見学会・入試説明会など様々な広報活動を通して、本校の魅力を十分に伝える。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
生徒指導部	特別活動の充実	HR活動、生徒会活動、ボランティア活動などを通して心身の成長を促す。	C	次年度については特別活動・部活動を通し更なる人格形成を行い、協調性・自律心を育みたいと思う。新しい生活様式の中で何ができるかを真剣に考えていきたい。
	部活動を通じた人格形成	部活動を通して、心身ともに健全な人間を育てる。	C	
		部活動を通して、全校生徒の一体感をつくる。	B	
		部活動を通して、協調性・自律心・規律を遵守する精神を育む。	C	
	情報セキュリティー	個人情報保護の重要性を認識し、プライバシーポリシーを遵守する。	C	
寮生部	安全管理	第一寮、第二寮合同で避難訓練を行い、災害時に備える。	B	寮生避難訓練については、生徒が密にならないように学年で分けて行うなど工夫してできたが、次年度はさらに計画通りできるようにする。清掃状況については、まだ注意を受ける生徒がいるので率先してできるよう指導していきたい。
		外出や外泊をする際は、必ず届け出を提出させ、所在把握を徹底する。	A	
	基本的な生活習慣の確立	巡回を行い、戸締まり・消灯・清掃状況等のチェックをし、点呼で指導する。	B	
		起床時間や消灯時間を徹底させ、体調確認を朝・夜と必ず行う。	A	
		規律ある共同生活を行うことにより将来にわたる人間形成に資する教育を行う。	A	
	学習習慣の定着	学習時間に巡回を行い、生徒が落ち着いて勉強できる環境をつくる。	A	
強化部	心身の健全な発達	常に全国大会を常に念頭においたチーム作りをする。	A	今年度はコロナ禍の中、目標としていた全国高校総体が中止となり、最後に試合のできない部活動があった。その中、野球部が秋季大会で初優勝、男女サッカー部が全国大会へ出場と結果を残した。昨年度と比べ、部活生の入学者が増えず、コロナの影響があったとはいえ課題を残した。
		他の生徒の模範となる生徒（選手）を育てる。	B	
	広報活動の活動	優秀な生徒（選手）を一人でも多く入部させる募集活動を積極的に行う。	C	
保健環境部	学習環境の整備	黒板・掲示物・窓枠・網戸・清掃具入れの点検・整備をする。	A	・日頃の清掃活動を徹底すると共に、清掃業者に委託すべき部分は委託し環境整備をしていきたい。 ・入学者増に伴い、机と椅子を計画的に購入していきたい。 ・避難訓練は感染防止対策をしながら、効果的に実施していきたい。
		机・椅子・教卓・黒板消しクリナーの保全・点検をする。	A	
	環境美化意識の育成	環境美化委員会を動員して、校内の美化に努める。	B	
		資源ごみ・可燃ごみなど分類の徹底を図る。周辺地域の清掃にも取り組む。	B	
	防災・避難訓練の充実	防災総合避難訓練・緊急地震速報による訓練などを実施する。	B	
		地域の関係機関と連絡を取り合うなど、防災への取り組みを充実させる。	C	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
保健環境部	心身の健康管理能力の育成	定期健康診断や保健教育を計画的に実施する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防対策の継続。正しい情報の発信。健康問題の早期発見。 ・アレルギーについて早期に対応する。 ・校舎全体の日々の清掃の強化。
		積極的に学校行事に参加させ、活動を通して仲間づくりを促す。	C	
	健康・安全教育の充実	面談・相談を通じて生徒の健康問題に早期に対応する。	A	
		保健・安全に関する情報発信を積極的に行う。	B	
		生徒の感染症予防のため消毒を徹底する。	A	
教務部	主体的で深い学びに向けた授業改善	育成したい力を明確にし、その力を育成するための具体的な手立てを明らかにした研究授業を実施する。	B	観点別評価、調査書の電子化などに対応できるように、しっかりと準備を進めていきたい。
		授業内容の向上のため、適切な時期に授業アンケートを実施をする。	C	
	進路実現のための学力向上	本校の現状にあった教育課程を弾力的に検討・編成する。	C	
		教務規定の見直しを引き続き行う。	C	
在籍管理と転編入学の円滑な実施	在籍管理を徹底するとともに、転編入学の手続きについて、円滑に進める。	B		
事務室	緊急時の対策	緊急発令があった場合を想定し、生徒・教職員の安全確保に備える。	A	今年度はコロナ感染防止対策やそれに伴う事務処理対応等に追われた一年であった。次年度は、今年度の経験を活かし、更にスムーズ且つ丁寧な対応ができるよう努力していきたい。
		定期的な設備点検等を行う。	A	
	個人情報の管理	生徒、教職員の個人情報管理を徹底する。	A	
		郵便物などの受け渡し対応をしっかりと心がける。	B	
	電話・窓口対応の心遣い	言動には注意し、明るく丁寧な対応をする。	B	
		相手が見えない電話での対応には、相手に不快な思いをさせない。	A	
国際部	留学を通じた国際理解	留学生生活を通じ、留学生と本校生徒の相互理解を図る。	B	留学生の日本語授業に日本人生徒が参加し、バディ的な役割を担ってくれていた。自然発生的に理想的な交流の場となり、留学生の学習に対するモチベーションも高まった。今後も留学生の日本語クラスは開放していきたい。
		クラス担任・学年主任と連携し、クラスでの状況を把握する。	B	
	留学生生活におけるルールの尊重	学校生活・寮生活を通じ、本校のルールを守り、基本的生活習慣を身に付ける。	B	
		留学生自治会主体の活動を促す。	C	
		保護者連絡を密にし、保護者の理解・協力を得る。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
国際部	日本文化・習慣への適応	アクティビティを実施し、日本文化・習慣に触れ、個人の価値観を広げることによって、豊かな人間形成を行う。	C	今年度はコロナ禍における入国、それに伴う保護者対応に追われる1年であった。その教訓を生かし、来年度は安全で効率的な入国受入れと丁寧な保護者対応に心がけたい。また、成績不振者が数名出たことを踏まえ、自律した留学生活への指導に注力したい。
	安心・安全な留学生活	防災教育を実施し、平常時より災害時への心構えと対応の理解を図る。	B	
		国際部職員から留学生への積極的な関わりを持つことで、留学生からの報告・連絡・相談が得られやすい環境をつくり、留学生活や人間関係・進路における不安を取り除く。	B	
		SNSの使い方を含め、モラル教育を実施し、多様性への理解を図ることで、留学生間及び本校生徒とのトラブルを未然に防止する。	B	
進路実現	教員自身が留学生の多様な受験方法・出願資格・手続き方法等を正しく理解し、適切なサポートを行う。	B		
進路指導部	生徒の主体的な進路選択の支援	進路ガイダンスや学年集会などを通し、進路への意識の向上をはかり、希望進路実現のために何が必要かを考えさせる。	B	コロナ感染症拡大のため、進路に係る様々な行事が中止になってしまったため、オンラインでの進路ガイダンスや卒業生を囲む会など代替行事を行ったが十分ではなかった。次年度はオンラインの強みを生かした進路行事の企画を積極的に行いたい。生徒の希望進路や現状の学力に関する情報を、学年・教科で共有し、これを実現するための対策をチームとして進めていくことが必要。またそれを実現するための授業力の一層の向上のための研修も増やしたい。
		多様な進路希望に対応できるよう、進路指導室の資料やPC環境の充実させ、利活用を促進する。	C	
		生徒面談や三者面談によって、生徒一人ひとりの希望・適性に応じた進路相談を行なう。	A	
		総合的な学習や大学見学、卒業生を囲む会などを通じて、3年間を見通した進路指導を行なう。	B	
	生徒の希望進路実現のための支援	生徒の希望進路実現のために、教員一人ひとりが授業の質を向上させるとともに、各教科で授業研修を行い全体としての指導力向上に努める。	C	
		実力テストや模擬試験の結果を分析し、進路指導部・学年・教科で共有し指導の向上に活かす。	B	
		夏期講習・冬期講習・放課後のゼミを実施するとともに、Classiの活用によって、成績上位層だけではなく、留学生も含めた全体の学力向上を図る。	B	
		オンライン学習の充実を図る。	B	
学校図書館	利用者数・貸出数の増加	「図書館通信」においては、生徒の興味関心を高める内容にすることを心掛け、図書館の利用促進に努める。	A	今年度はコロナウイルス感染拡大により、図書館の活動が制限され、活発に活動することが出来なかった。今後は、開かれた図書館を目指すとともに、不測の事態に陥った際にも活動が続けられる図書館作りにも励みたい。
		様々な授業で図書館を活用してもらうことで、図書館に対する認知度を上げ、利用者拡大につなげる。	C	
		生徒や教員に希望図書などのアンケートを実施し、ニーズに合った図書館づくりに取り組む。	B	
		図書館内の掲示物や配置などを工夫し、利用しやすい環境づくりに取り組む。	A	
	本に親しむ環境づくり	図書委員会の活動の場を増やし、生徒に図書委員としての自覚を持たせるとともに図書委員会の活性化を図る。	C	
		学習・読書の情報センターとしての図書館だけではなく、生徒にとって居場所の1つとなる環境づくりに取り組む。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
1 学年	基本的な生活習慣の確立	学年集会やLHR、総合的な探究の時間を通して挨拶や社会のマナーを身に着ける。	A	新型コロナウイルスの中で実施できた行事は少なかったが、クラスマッチや映画鑑賞会など学年が協力し生徒のために実施することができた。次年度も新しい生活様式の中で、できることを模索し、生徒のために行動していく。
	豊かな人格形成	学校生活や部活動を通して強い精神力を身に着け、豊かな人格を育む。	A	
	将来を見すえた学習指導	受験方法が多様化する中で、受験方法に応じた学力の構築、小論文の指導を徹底する。	B	
2 学年	基本的な生活習慣の確立	HRや学年集会・総合的な探究の時間を通して社会人としてのマナーを身に付けさせる。	B	実施できた行事が少なかったがクラスの枠を超えて学年が協力して臨めたことが多くあった一年だった。進路への取り組み方も例年より早いと感じているので生徒の進路実現に向けて今後も努力していく。
		授業の予習・復習などを習慣化させ、学習スタイルを確立する。	A	
	学校生活の充実	学校行事を通して生徒の自発的なクラス運営へと働きかける。	B	
		部活動を通して豊かな人間性を育む。	A	
	進路指導の充実	HRや学年集会・進路コーナーなどを活用して適切な情報提供を行う。	A	
		進路行事や個人面談を通して適切な進路目標を設定させる。	A	
3 学年	社会人として通用するモラルやマナーの確立	学年集会を始め、ホームルームや個別の進路指導等を利用して社会的モラルやマナーを身に付けさせる。	A	新型コロナウイルスによる休校中もオンラインで集会や進路指導を進めることができた。また学校再開後も一人ひとりのニーズに応じた的確な進路指導ができた。モラルやマナーの教育という点では、新しい生活様式を念頭に置いた行動を意識させるよう努めたが、時間が経つにつれて慣れあって徹底しきれなかった。慣れの中であっても意識を下げずに行動できるよう指導していきたい。
	思考力・判断力表現力の向上	授業・進路指導を通して、進路実現に必要な能力を向上させる。	B	
	希望進路の実現	一律の指導ではなく個々に応じたきめ細やかな進路指導を行い進路実現のサポートをする。	A	